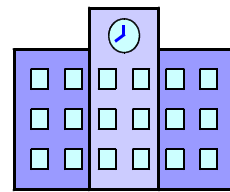


『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その7

今号では『外部アドバイザーによる指導と助言』について紹介させていただきます。本校では10月1日(火)に植草学園大学名誉教授である、野口 芳宏氏(「授業の名人」と呼ばれ、特に国語教育の第一人者として著名な実践家)を招き『野口芳宏先生による授業と講演会』と題し、示範授業公開と教育講演会を実施しました。なお、本校には、管内から教育関係者が多数集まり、本校職員も含めて総勢56名の参加者による授業と講演会となりました。



示範授業公開では、4年学級で国語科「一つの花」の授業を見せていただきました。教室には参観者でスペースが全て埋まり、一段高い立ち見席も設けての授業参観となりました。初めは不安そうな面持ちの4年生でしたが、野口先生の、全体には厳しく、個々には笑顔で温かく接しながら進める雰囲気、4年生全員が引きこまれ、よい集中の中で授業が展開されました。「世の中で戦争の激しかった頃の様子は、何段落までに書かれてあるか?」の発問をして、ノートに「○段落」と書かせ、その理由を発表させる。そして「判断は誰でもできる。根拠を話せることが大事」と子どもたちに語りかける。内容的には少しレベルが高く、スピードも要求されましたが、4年生は積極的に「考え」ながら「書く」「話す」活動に取り組んでいました。授業の中では[姿勢][手の挙げ方][音読や発表の適切な声量]についても指導され、授業における教師の心構えについても、実際にやってみせてくれることで、我々に大切なことをしっかりと示してくれました。

その後1階ホールで行った教育講演会では『学力を保障する日常授業』の講演題のもと「国語の授業を通してどのような学力をつけるか」を中心に講演されました。「どんどん教えて新しい知識を与えて力をつけてあげることが大事」「正解であるか誤答であるか教えてあげなければならない。子どもの考え(誤答)を否定すると子どもが傷つくから否定しない方がよい...これでは学力がつくわけがない。」「謙虚に他の人の話に耳を傾けて、自分の考えと比べさせることが大切」など、授業を実践する教師にとって必要な授業行為について熱く語っていただきました。そのためには、教師の授業に向かう姿勢はもちろん、しっかりとした授業準備が不可欠であることを改めて教えられました。なお、国語科では[読字力][語彙力][文脈力(読解力)]が特に大切であり、力を子どもたちにつけさせるためには、日常授業を絶えず振り返り、常に授業改善を図っていかなければならないという意識を強くもたせられました。

今回の「授業と講演会」における野口先生からのキーワードを心に留め、本校の全ての教師が、1時間1時間の授業をより大切に進め、確実に子どもたちに必要な力をつけさせていこうと考えます。

なお、外部アドバイザーによる指導と助言は、この後、2月には、道内講師が2名来校する予定となっています。せっかくの機会を日常授業や学級経営の充実に生かしていくことができるよう、職員一同、他者からの「学び」の気持ちを大事にしていきたいと思ひます。

